

2020年4月11日(土) OPEN

弘前れんが倉庫美術館

(青森県弘前市 吉野町)

施設名称 ロゴマーク 開館日
発表

| 本資料に関するお問い合わせ |

弘前芸術創造株式会社 [広報事務局 N & A (株)内] (平日 10:00~17:00)

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-11-15 7F

TEL:03-6261-5783 / FAX:03-6369-3596 / E-mail:press@hirosaki-moca.jp

| 弘前から開く 新しい美術館が開館します

明治・大正期に建設され、近代産業遺産として弘前の風景を形作ってきた吉野町煉瓦倉庫を改修し2020年4月11日、新しい美術館が開館します。建築を手がけるのは国内外で活躍する建築家・田根剛。築100年にも及ぶ煉瓦の建造物は耐震性能を高め、場所の記憶を継承する美術館に生まれ変わります。

本施設では、建物の空間の魅力を最大限に生かした国内外の先進的なアートを紹介するとともに、弘前そして東北地域の歴史、文化と向き合う同時代の作品を収集し、展示します。また施設にはスタジオやライブラリーも備え、市民が集い、創造する場として地域に開かれます。過去から現在、そして未来へと繋がる新たな創造性を喚起する文化創造の拠点を目指します。

この度、美術館の名称（日英）、ロゴ、並びに開館日が決定しましたのでお知らせします。

| 施設名称

弘前れんが倉庫美術館

Hirosaki Museum of Contemporary Art

「吉井酒造煉瓦倉庫」そして「吉野町煉瓦倉庫」として地域の中で呼び親しまれてきた場所の記憶と歴史を、建築とともに未来へ継承したいという想いのもと「弘前れんが倉庫美術館」と名付けられました。また同時代の文化芸術のための美術館であることを世界に発信するため英語表記を「Hirosaki Museum of Contemporary Art」としました。

| 開館日

2020年（令和2年）4月11日（土）



上空からみたシードル・ゴールドの屋根

©Atelier Tsuyoshi Tane Architects



吉野町煉瓦倉庫 外観

©NAOYA HATAKEYAMA

｜弘前れんが倉庫美術館の基本理念とミッション

先進的な内外のアートを紹介し、現代の多様な表現や感性を人々と共有し新たな創造へと繋げる文化創造の拠点をめざします。また「開かれた美術館」として、地域の住民がアートやデザインに日常的に触れながら集うことのできるコミュニティのための場としても機能します。さらに、近代産業遺産である煉瓦倉庫の空間を最大限に生かした展示を通して、新たな体験を創出します。

｜展覧会・コレクションのための3つの柱

弘前れんが倉庫美術館では、過去から現在へ、そして未来へと繋がっていく新たな創造性を喚起すべく、企画展・コレクションに関して、以下の3つの柱を基本とします。

1. 赤煉瓦倉庫の建築と対話をし、新たな創造性を喚起する作品

～近代産業遺産でもある煉瓦倉庫の建築的記憶の再生と空間体験の提供

2. 弘前・東北地域との対話を促し、その自然、歴史、物語を素材とする作品

～地域の新たな可能性の開発と歴史の再生

3. 現代および未来の可能性を喚起させる作品

～新たな技術、制作方法、異文化との交流、変容するアートのかたちの模索

※ 展覧会およびコレクションの詳細は2019年秋頃の発表を予定

|—————|
弘前れんが倉庫美術館

|—————|
HIROSAKI
MUSEUM OF CONTEMPORARY
ART

弘前れんが倉庫美術館

HIROSAKI
M O C A

弘前れんが倉庫美術館

HIROSAKI
M O C A

弘前
れんが倉庫
美術館

HIROSAKI
M O C A

HIROSAKI
MUSEUM OF CONTEMPORARY
ART

HIROSAKI
MUSEUM OF CONTEMPORARY
ART

HIROSAKI
MUSEUM
OF
CONTEMPORARY
ART

| コンセプト

弘前の「H」が上に乗る、名称の文字列の長さにあわせて伸びていくデザインです。市民の記憶が積み重なった煉瓦倉庫が、現代美術館に生まれ変わり、弘前の未来の一翼を担っていく、その時間軸をイメージした横棒と、目盛のような縦棒で、「H」が形づくられています。

和文の「弘前れんが倉庫美術館」、英文の「HIROSAKI MUSEUM OF CONTEMPORARY ART」、「HIROSAKI MOCA」の3つが、この「H」が上に乗ることでひとつのイメージにまとまるように考えました。

このロゴには、文字の組み方を変えたいくつかのバリエーションがあります。改行などの変化にあわせて上の「H」も伸縮し、ロゴは自在に形を変えることができます。

文字は、上下に移動しながら流れていくように並んでいます。美術館の1階と2階を階段やスロープで巡るイメージでもあり、美術と出会うことで生まれる心の動きにも通じるものだと思います。

色彩は、黒(無彩色)をメインカラー、赤をサブカラーとしています。中立的で汎用性の高い黒と、先進的でいきいきとした活動にふさわしく、れんがやりんごも連想させる赤を、場面によって使い分ける計画です。

服部一成

| 服部一成 [グラフィックデザイナー]



1964年生まれ。ライトパブリシティを経てフリーランス。主な仕事に「キューピーハーフ」の広告、雑誌『流通信』『here and there』『真夜中』のアートディレクション、三菱一号館美術館や新潟市美術館のVI計画、ロックバンド「くるり」のアートワークなどがある。毎日デザイン賞、亀倉雄策賞、ADC賞、東京TDCグランプリなどを受賞。

| 施設の建築改修プラン

| コンセプト

吉野町煉瓦倉庫は、酒造工場として明治・大正期に建設され、日本で初めてシードルを大々的に生産した場所として、弘前の風景をつくり続けてきました。しかしその役割を終えた建物は、空白のまま長い間、ここに佇み続けていました。国内ではこの様な近代産業遺産を壊し、世代から世代へと受け継がれた土地の記憶を失い続けていく中で、弘前市は吉野町煉瓦倉庫を「世界のアート」が体験できる美術館にすることを決定しました。

我々はこの意志を受け継ぎ、耐震補強や様々な制度による制約がある中で、残せるものは全て残し「記憶の継承」をコンセプトに老朽化や経年によって傷んだ外壁を修復し、分厚い漆喰で覆われた内壁を剥がし、全て「赤煉瓦」で包み込みます。老朽化した屋根を「シードル・ゴールド」の菱葺屋根にすることで、光によって移ろう輝きが新たな美術館のイメージを創出します。またA棟は市民に開かれた文化施設として様々な活動が行われ、B棟は倉庫の持つ空間性を活かした大型展示のできる展示空間を計画しています。また酷く傷んだC棟を「シードル・カフェ」として再生することでアートと市民を繋ぐ場所を担うこととなります。記憶の継承と風景の再生によって生まれる新たな美術館が弘前を世界へと繋げる場所となります。

田根剛

| 建築の特徴

- ・ 歴史ある煉瓦倉庫を活用し、次の時代の使い方へと継承する
- ・ 「シードル・ゴールド」の屋根が新たな美術館のイメージをつくる
- ・ 「ミュージアム・ロード」がアートと市民を繋ぐパブリック・スペースとなる
- ・ ここでしか見られない「サイトスペシフィック」な展示空間
- ・ 煉瓦の表情を残し、補強工事を感じさせない高度な技術力による設計
- ・ C棟がシードル・カフェとなり市民に開かれた場所となる

| 田根剛 [建築家]

1979年東京生まれ。Atelier Tsuyoshi Tane Architectsを設立、フランス・パリを拠点に活動。2006年にエストニア国立博物館の国際設計競技に優勝し、10年の歳月をかけて2016年秋に開館。また2012年の新国立競技場基本構想国際デザイン競技では「古墳スタジアム」がファイナリストに選ばれるなど国際的な注目を集める。場所の記憶から建築をつくる「Archaeology of the Future」をコンセプトに、現在ヨーロッパと日本を中心に世界各地で多数のプロジェクトが進行中。主な作品に「エストニア国立博物館」(2016年)、「Todoroki House in Valley」(2018年)、「とらやパリ店」(2015年)、「LIGHT is TIME」(2014年)など。フランス文化庁新進建築家賞、フランス国外建築賞グランプリ、ミース・ファン・デル・ローエ欧州賞2017ノミネート、第67回芸術選奨文部科学大臣新人賞、アーキテクト・オブ・ザ・イヤー2019など多数受賞。2012年よりコロンビア大学GSAPPで教鞭をとる。



| 施設概要 開館時間： 9：00 ～ 17：00
金曜日・土曜日：スタジオ施設（A棟）のみ 21：00 まで開館

| WEBサイト URL： <http://www.hirosaki-moca.jp> 2019年7月14日公開

| Instagram アカウント： hirosaki_moca 2019年7月14日公開

| 吉野町煉瓦倉庫について

現在の吉野町煉瓦倉庫のある土地は、明治時代、青森県のリンゴ栽培の開拓期において本格的な栽培が行われた場所のひとつです。1907年（明治40年）に弘前市の醸造家・福島藤助が酒造工場として建造した煉瓦倉庫では、戦後、リンゴを原料としたシードルが日本で初めて大々的に生産されました。また2002年、2005年、そして2006年と過去3回、弘前市出身のアーティスト奈良美智氏による展覧会が開催された場所としても知られています。吉野町緑地とともに弘南鉄道大鰐線中央弘前駅、最勝院五重塔、そして岩木山を望むことができるこの場所は、弘前の街の風景として、市民に長年親しまれています。